

問1 関東地方のある県について述べた次の文のうち、昼夜間人口比率の観点から説明される現象として最も適切なものはどれか。  
なお、この県は人口密度が非常に高いものの、昼夜間人口比率は全国で最も低い水準にあります。 (2020年 高知公立入試 類似)

1. 県外の都心部へ通勤・通学する人が多いため、昼間の人口が夜間の常住人口よりも少なくなる。
2. 大規模な工業地帯が形成されており、周辺の都県から多くの労働者が流入して昼間の人口が増加する。
3. 県庁所在地を中心に商業施設が集中しているため、県内全域から買い物客が集まり昼夜間人口比率が100%を超える。
4. 広大な農地が広がっており、居住人口そのものが少ないため、昼夜間人口比率の変動がほとんど見られない。

問2 北側の筑波山山頂から南側の市街地に向かって直線を引いた地形図をもとに、地形の起伏を横から見た「断面図」を作成することを想定します。この地形図において、山頂付近では等高線の間隔が非常に狭く、南側の市街地に近づくにつれて等高線の間隔が広がっているとき、読み取れる地形の特徴として正しいものはどれですか。 (2024年 神奈川県公立入試 類似)

1. 山頂付近は斜面が急であり、市街地に向かうにつれて傾斜がなだらかになっている。
2. 山頂付近は平坦な土地が広がっており、市街地に向かうにつれて急な崖になっている。
3. 山頂から市街地にかけて、標高の変化が全くない平坦な地形が続いている。
4. 市街地の標高が最も高く、北の山頂に向かって標高が徐々に下がっている。

問3 群馬県太田市などの北関東の都市を中心に見られる、高速道路のネットワークを活用した工業の立地について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2021年 奈良公立入試 類似)

1. 製品の輸送や部品の調達をトラックで行うのに適した、高速道路のインターチェンジ周辺に工場が集まっている。
2. 電力の確保を最優先とするため、大規模な水力発電所が建設されている山間部の急流沿いに工場が密集している。
3. 原料を海外からの輸入に頼るため、大型船が接岸できる埋立地や臨海部に広大な工場用地を確保している。
4. 製品の鮮度を保つために、消費地である大都市の中に小規模な工場が点在し、地下鉄を利用して製品を運んでいる。

問4 明治時代以降、官営模範工場である富岡製糸場が設立されるなど、製糸業が大きく発展した群馬県において、現在、県庁所在地となっている都市はどこですか。 (2015年 岐阜公立入試 類似)

1. 前橋市
2. 高崎市
3. 富岡市
4. 桐生市

問5 日本の大都市圏における人口動態を分析した際、千代田区などの東京都心部で見られる特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2018年 山形県公立入試 類似)

1. 昼間人口を夜間人口で割って算出される数値が、100%を大きく超えている。
2. 都心から郊外へ向かう通勤・通学者が多いため、昼間人口が夜間人口を下回っている。
3. さいたま新都心のように都市機能の分散が進んだため、昼間人口と夜間人口がほぼ等しい。
4. ドーナツ化現象が完全に解消された結果、夜間人口が昼間人口を上回るようになった。

問6 関東地方の各都県にまたがる台地の自然環境と土壌について述べた文として、最も適切なものを選択してください。 (2026年 福島公立入試 類似)

1. 富士山や箱根山などの火山灰が堆積してできた、関東ロームと呼ばれる赤色の土層が台地を広く覆っている。
2. 九州地方南部に広がる、大規模な火砕流による火山灰が堆積してできたシラス台地が形成されている。
3. 西日本に多く見られる、花こう岩が風化してできた「まさ土」と呼ばれる水はけの良い砂状の土が広がっている。
4. 利根川などの河川が運んできた土砂が堆積してできた、水田に適した粘土質の土壌が台地の大部分を占めている。

問7 2万5千分の1地形図「鎌倉」を用いて、逗子駅から田越川を渡り、砂浜が広がる逗子海水浴場付近までの地形的な特徴を確認しました。地形図において、海岸線（砂浜）と市街地の境界付近に位置する地点の状況を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2025年 東京都公立入試 類似)

1. 等高線が非常に密になっており、海に面した急峻な崖が続いている。
2. 土地利用が針葉樹林から果樹園へと変化する緩やかな傾斜地である。
3. 市街地、河川、海岸線の三つの要素が非常に短い距離で近接している。
4. 大規模な干拓事業によって造られた、海面より低い平坦な農地である。

問8 高度経済成長期に18歳で上京し、25歳で結婚、その4年後の1970年代半ばに多摩ニュータウンの集合住宅へ入居した人物のライフステージを考えたとき、当時の地域社会で起きていた現象の説明として最も適切なものはどれですか。 (2024年 佐賀公立入試 類似)

1. 入居時期が地域の出生数のピークと重なり、子供たちのための学校建設などが急ピッチで進んだ
2. 入居時期は1990年代にあたり、バブル崩壊による地価下落で人口が都心へ回帰し始めた
3. 2005年ごろの入居であったため、すでに地域の高齢化が進んでおり出生数は最低水準であった
4. 入居当時は高度経済成長前であったため、周辺はまだ農村地帯であり集合住宅は稀であった

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 県外の都心部へ通勤・通学する人が多いため、昼間の人口が夜間の常住人口よりも少なくなる。	昼夜間人口比率は「 $(\text{昼間人口} \div \text{夜間人口}) \times 100$ 」で算出されます。埼玉県のように大都市（東京都）に隣接する地域では、就業や就学のために県外へ流出する人口が流入する人口を大幅に上回るため、数値が100%を下回ります。これは交通網の整備によって、都心への長距離通勤が可能になった現代日本の都市構造を反映しています。
問2	<b>答え 1</b> 山頂付近は斜面が急であり、市街地に向かうにつれて傾斜がなだらかになっている。	地形図における等高線の間隔は、その土地の傾斜の度合いを表しています。間隔が狭いほど斜面が急であることを示し、間隔が広いほど傾斜がなだらかであることを示します。筑波山のような山地から市街地（平野部）にかけて断面図を考える場合、山頂側の等高線が密集し、市街地側で広くなるのは、険しい山から平坦な土地へと変化する地形構造を反映しています。
問3	<b>答え 1</b> 製品の輸送や部品の調達をトラックで行うのに適した、高速道路のインターチェンジ周辺に工場が集まっている。	内陸型工業の最大の特徴は、道路網の発達を背景に、交通の利便性が高い場所に立地することです。特に、部品の調達と製品の出荷が頻繁に行われる自動車工業などでは、高速道路のインターチェンジ付近に工場を建てることで、物流コストを抑えつつスムーズな生産体制を築いています。これに対し、臨海部に立地するのは鉄鋼業や石油化学工業などの重化学工業であり、内陸型工業とは立地条件が異なります。
問4	<b>答え 1</b> 前橋市	群馬県の県庁所在地は前橋市です。前橋市は古くから「糸のまち」として知られ、生糸の集散地や製糸業の拠点として発展してきました。選択肢にある富岡市は世界遺産の富岡製糸場がある都市、高崎市は交通の拠点としての役割が強い都市であり、混同しないよう注意が必要です。
問5	<b>答え 1</b> 昼間人口を夜間人口で割って算出される数値が、100%を大きく超えている。	昼夜間人口比率は「 $(\text{昼間人口} \div \text{夜間人口}) \times 100$ 」で算出されます。都心部では通勤・通学による流入人口が多いため、分母となる夜間（居住）人口よりも分子となる昼間人口が圧倒的に大きくなり、比率は100%を大幅に超えます。逆に、住宅地である郊外の都市では、都心へ人が流出するため、この比率は100%を下回る傾向にあります。
問6	<b>答え 1</b> 富士山や箱根山などの火山灰が堆積してできた、関東ロームと呼ばれる赤色の土層が台地を広く覆っている。	関東地方は、利根川などの流域に広がる「低地」と、その周囲に広がる「台地」に分けられます。この台地部分を覆っているのが「関東ローム」であり、火山灰が堆積してできた赤土であるという点が最大の特徴です。シラスは主に鹿児島県を中心とした九州南部、まさ土は西日本の山地・平野に多く見られる土壌であり、地域ごとの土壌の特色を捉えることが重要です。
問7	<b>答え 3</b> 市街地、河川、海岸線の三つの要素が非常に短い距離で近接している。	逗子駅周辺の地形図では、駅から商店街（市街地）、田越川（河川）、そして逗子海水浴場（海岸線）が南北に連続して配置されています。このように、異なる地理的要素が狭い範囲に集まっているのがこの地域の大きな特徴です。
問8	<b>答え 1</b> 入居時期が地域の出生数のピークと重なり、子供たちのための学校建設などが急ピッチで進んだ	高度経済成長期から1970年代にかけては、都市部への人口集中を背景に郊外のニュータウン開発が最も盛んな時期でした。18歳で上京した若者が結婚を経て1970年代半ばに入居するという流れは、当時の典型的な人口移動のパターンを示しています。この時期はニュータウン内での出産が相次ぎ、出生数がピークに達したため、教育施設や公園といったインフラ整備が急激に求められる社会状況にありました。